

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稲の生育状況（8月5日現在）について

発信日：2021年8月16日

1 内容

平年値(2011～2020年までの過去10年平均)と比べ、8月5日現在の水稲の生育状況は以下の表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(8月5日現在)

| 品種 | 移植時期 | 草丈 | 茎数 | 葉色 |
|----------|--------|------|-------|------|
| はるみ | 6月上旬* | 同等 | やや少ない | やや薄い |
| | 6月中旬** | やや短い | やや少ない | 同等 |
| キヌヒカリ | 6月上旬 | やや長い | やや少ない | やや薄い |
| | 6月中旬 | 同等 | やや少ない | 薄い |
| [参考] | | | | |
| てんこもり*** | 6月上旬 | 長い | やや多い | 同等 |
| | 6月中旬 | 同等 | やや少ない | 薄い |

*2014～2020年までの過去7年平均との対比 **2015～2020年までの過去6年平均との対比

***2018～2020年までの過去3年平均との対比

2 留意事項

(1) 気象

気象庁が8月5日に発表した1か月予報では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」となっています。

(2) 出穂期

8月5日現在の生育状況と今後の気象予報から判断すると、出穂期はやや早いと考えられます。

(3) 水管理

出穂10日後までの期間は、水を切らさないように注意します。

出穂10日後以降は、根腐れを防止し登熟向上を図るため間断かん水を行きましょう。

ただし、出穂後高温が続く場合、乳白粒などの未熟粒の発生が多くなるので、かけ流しかん水（特に夜間の掛け流し）を行い、水温をできるだけ下げて水稲への負担を軽減しましょう。

(4) 追肥

追肥は、玄米の充実促進と品質向上のために必要です。

梅雨明け以降は高温傾向であり、追肥を十分に施用していない場合は、粒の充実不足が懸念されます。出穂前に葉色が極端に落ちている場合は、追肥を施用してください。

(5) 病虫害防除

○トビイロウンカ【写真1】

7月19日に小田原市内の予察灯でトビイロウンカの誘殺が確認されました。7月30日現在、水田での寄生は確認されていませんが、トビイロウンカは増殖が早いので、8月以降、水田で急激に増える可能性があります。今後のトビイロウンカの発生状況に注意してください。水稻の株元に短翅型成虫が株あたり2～3頭以上寄生していると坪枯れの被害が予想されます。収穫前日数に気を付け、適切な防除に努めましょう。防除薬剤については、病虫害防除部のホームページを参照してください（病虫害情報 号外8号）。



坪枯れ症状【写真1】

○斑点米カメムシ類【写真2】

斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、これからの除草は行わないようにします。



斑点米カメムシ類の一種

ホソハリカメムシ【写真2】

○紋枯病【写真3】

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。「はるみ」や「キヌヒカリ」は紋枯病にやや弱いので、発生に注意しましょう。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では出穂期前までに防除を行います。また、翌年は紋枯病に登録のある箱粒剤を使うようにしましょう。



紋枯病【写真3】

○いもち病【写真4】

低温・多雨・日照不足が発病を助長します。葉いもちが発生した水田では適切な防除を行い、翌年はいもち病に登録のある箱粒剤を使うようにしましょう。



いもち病【写真4】

○籾の褐変【写真5】

出穂期前後の強風、高温多湿の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が籾に発生しやすくなります。強風が予想される場合は、深水管理で影響を受けにくくします。



籾の褐変症状
【写真5】

○イネ縞葉枯病【写真6】

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルスによって発病します。イネ縞葉枯病が発生した場合、株ごと除去し、ほ場外で処分します。



イネ縞葉枯病
【写真6】

○スクミリングガイ（ジャンボタニシ）【写真7】

ピンク色の卵塊【写真8】を水田内、畦畔・水路周辺で確認したらすべて潰します。水田内への侵入・隣接水田への被害拡大を防ぐために、水口・水尻に6～9mm目合いの網を設置して捕殺します【写真9】。



スクミリングガイ【写真7】



スクミリングガイの卵塊【写真8】



網の設置の様子【写真9】

※病害虫の発生状況等については、病害虫防除部の情報等に注意しましょう。

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効です。水田等の見回りは、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨や強風が収まり、安全な状況になってから行います。

ア 事前防止対策

- ・用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・台風前には水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報に注意します。

(7) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょ。汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょ。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょ。マスクを着用する場合は、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけ、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的に外して休憩しましょ。

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）における出穂期等の過去10年平均値

| 作期 | 品種名 | 水を切ってはいけない期間 | 出穂期 | 成熟期 |
|--------|-------|--------------|----------|----------|
| 5月27日植 | キヌヒカリ | 7月22日～8月16日頃 | 8月6日* | 9月13日* |
| | さとじまん | 7月29日～8月23日頃 | 8月13日* | 9月25日* |
| 6月7日植 | はるみ | 7月26日～8月20日頃 | 8月10日 | 9月19日 |
| | キヌヒカリ | 7月25日～8月19日頃 | 8月9日 | 9月17日 |
| | さとじまん | 8月1日～8月26日頃 | 8月16日 | 9月27日 |
| | てんこもり | 7月31日～8月25日頃 | 8月15日** | 9月24日** |
| 6月17日植 | はるみ | 8月1日～8月26日頃 | 8月16日*** | 9月27日*** |
| | キヌヒカリ | 7月31日～8月25日頃 | 8月15日 | 9月26日 |
| | さとじまん | 8月6日～8月31日頃 | 8月21日 | 10月4日 |
| | てんこもり | 8月3日～8月29日頃 | 8月19日** | 10月2日** |

- ・ 出穂期約15日前～出穂期10日後までの約1か月間は、水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水を十分に保つようにする。
- ・ * ; 5月下旬植については、2002～2006年（5年平均）のデータに基づく。
- ・ ** ; てんこもりについては、2017～2020年（4年平均）のデータに基づく。
- ・ *** ; 6月中旬植の「はるみ」については、2011～2012、2015～2020年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先
 農業技術センター普及指導部作物加工課
 平塚市上吉沢1617
 TEL : 0463-58-0333 内線 382～384
 FAX : 0463-58-4254